

思川だより

平成 28 年 11 月 21 日 第 5 5 号

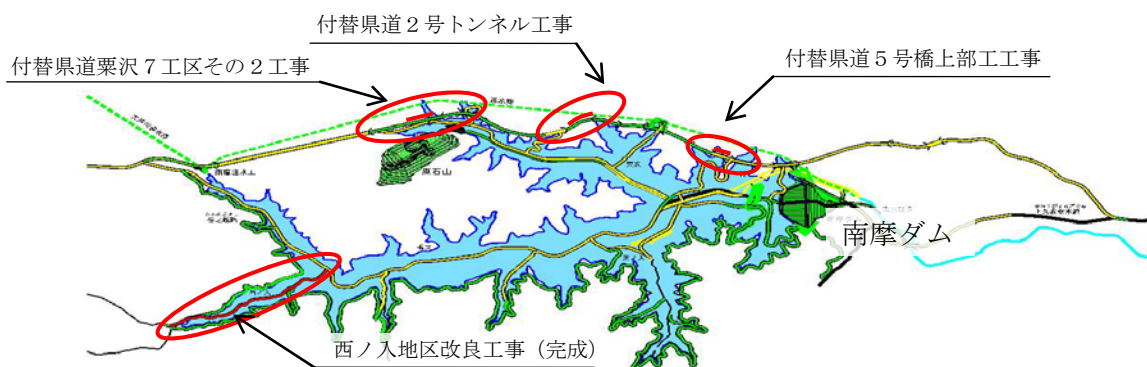


工事の実施状況について

思川だより前号（第 5 4 号：増刊号）で既にお知らせしたとおり、本年 8 月 25 日に「ダム検証」が終了したことから、思川開発建設所では、付替県道^{かみくがとちぎ}上久我 枋木 線の更なる進捗を図るため、新たに「付替県道 2 号トンネル工事 (H28.10.1～H29.12.20)」、「付替県道 5 号橋上部工工事 (H28.10.5～H29.12.8)」、「付替県道^{けんどうあわさわ} 粟沢 7 工区その 2 工事 (H28.10.29～H30.1.11)」の 3 工事に着手しました。

また、西ノ入地区^{にしのいり}で実施していた道路工事「西ノ入地区改良工事 (H28.3.17～H28.10.22)」を完了しました。

付替県道については、残りの区間の工事を早期に進捗させて完成を目指します。



付替県道2号トンネル工事



付替県道5号橋上部工工事



各工事の施工イメージ

ダムの豆知識

1. ダムの語源

ダムという言葉の語源をご存知でしょうか。日本語のダムは、英語の「dam」をカタカナ表記したものです。dam という単語の語源は、オランダ語であるというのが主流です。

オランダの国土は、海水面よりも低い地域が多く、堤防を築いて発展を遂げてきました。その堤防が dam と呼ばれたそうです。オランダの都市の名前は、アムステルダム(アムステル川の堤防)、ロッテルダム(ロッテ川の堤防)という意味があります。



上下流交流会



おやまし 小山市の小学生15名と親御さんの計29名が参加して、水源地である鹿沼市かぬましとの親交を図る上下流交流事業「水のふるさと見学ツアー」が、8月21日に両市の主催で開催されました。



水源地となる鹿沼市南摩地区なんまを訪れ、「水の大切さ」や「水道の水はどこから来るのか」を学ぶとともに、南摩地区住民の方々の協力を得てのそば打ち体験、鹿沼の伝統工芸「組子」くみこ作り体験、鹿沼今宮神社祭の屋台行事いまみや（本年10月にユネスコ無形文化遺産登録が勧告された「山・鉾・屋台行事」ほこの一つ）で使用される「彫刻屋台」見学など、水源地域の食や文化に触れ、



水源地域と下流域との交流により相互理解を深めました。また、南摩ダム建設予定地も見学し、事業について知識を深めてもらいました。

参加者からは、「初めての体験ができて楽しかった」、「ダムが完成したらまた行きたい」といった感想が寄せられました。

上南摩地区の自然環境について勉強しよう！！

上南摩小学校の「森林環境学習」が南摩ダム水没予定地で開催されました。



思川開発建設所が管理する環境保全地で、上南摩小学校の全校児童22名による、自然のしくみや重要性などを学習することを目的とした「森林環境学習」が8月31日（水）に開催されました。環境保全地は、思川開発事業で影響を受ける動植物のために、湿地をはじめとする多様な環境（池・湿地、林縁など）をつくる目的で、当建設所が造成したものです。

当日は、講師を務める鹿沼自然観察会会長の渡邊知義先生わたなべともよしから鹿沼周辺の自然環境の話の聞いたり、実際に湿地の周りや林道沿いを観察し、意欲的に昆虫採集や植物の観察を行いました。機構職員も渡邊先生の解説に聞き入り、自然のしくみや重要性などについて学ぶ、大変良い機会になりました。

捕まえた生き物は、元の場所に放しました。



下

野

か

る

た

より

今号から栃木県内のかるたを用いて、様々な歴史・文化を紹介します。

栃木県域は、古く令制に基づく「下野国」とほぼ重なります。

栃木県文化協会発行の『下野かるた』は、この「下野」の名を冠したかるたで、県内の様々なトピックスを取り上げています。今号は、この「下野かるた」からの紹介です。



<川上澄生（かわかみ すみお）>

川上澄生は、明治28年横浜生まれの版画家。宇都宮中学校（現宇都宮高校）や宇都宮女子高校などで教鞭をとりながら、版画制作を行いました。

鹿沼市出身の教え子のコレクションをもとに、平成4年、鹿沼市立川上澄生美術館が設立され、現在も同市を代表する文化施設の一つとなっています。



思川散策

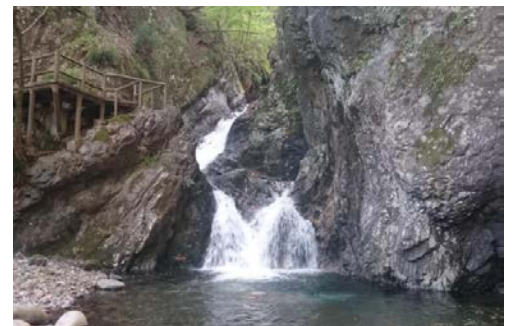
「思川流域のご紹介」から生まれ変わった「思川散策」。

<思わず行きたくなる思川>をご紹介します。

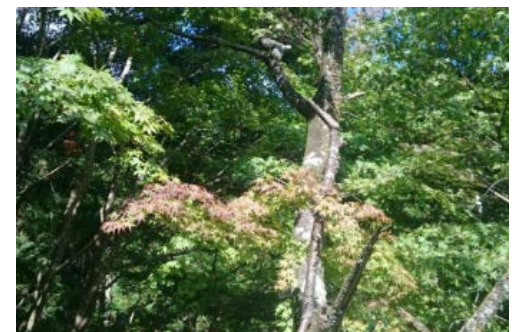
今回は建設所周辺の入粟野をピックアップ!

湯に水に緑に！入粟野でゆったり紅葉満喫♪

思川開発建設所の近くを通る県道246号線をまっすぐ進むと、一面の田畑から全面の森林へ！険しい上り坂もありますが、モミジが続く道は紅葉シーズンのドライブにぴったりです。道中の「熊注意」標識の隣にひっそりと「太郎次たろうじの滝」という看板があります。長い鉄階段を降りると、看板のごとくひっそり（筆者も滝を見つけるのに坂を3往復ほどしました）、しかしながら神秘的な2本の滝が目の前に。一見小ぶりに思えますが、全長14mと旧粟野町内で最大規模だそうです（観光協会パンフレットより）。滝に心が洗われたあとは鹿沼市営の温泉「つつじの湯」も近くにあり、これからの肌寒い季節でも楽しめるスポットです！周辺には太郎次の滝の他にもいくつか滝があるようなので、秘境巡りにいかがでしょうか？



太郎次の滝



訪問時のモミジの様子。色づき始めたばかりでした！

その他の道中スポット

▼21世紀林業創造の森：道中に「アジサイ街道」

▼加蘇山神社：1000年以上の歴史を持つ神社



上南摩の動植物



和名:カザグルマ 属名:センニンソウ属

分布:本州、四国、九州、朝鮮、中国

(栃木県内:那須町、馬頭町、宇都宮市、鹿沼市、芳賀町、足利町 等)

○環境省:準絶滅危惧、栃木県:準絶滅危惧(Cランク)

今回は、思川開発事業で環境保全対策を実施した種の1つである、カザグルマを紹介します。カザグルマは、つる性の^{そうほん}草本です。茎は、はじめ緑色の軟毛ですが、後に無毛となり、褐色に木化します。葉は羽状複葉で、卵型の小葉が3~5枚、葉に長い柄があり、

物に巻きつきます。花は5~6月に開花し、8枚の萼片からなり、栃木県ではほとんどの産地で白色です。

生育環境は、コナラ林、ミズナラ林の林縁、湿地、小川の縁などで湿り気の多い半日陰~陽地に生育します。かつては栃木県内に広く分布していましたが、宅地や別荘地の造成などで生育地が狭められています。(県北の湿地に比較的多く見られます。)

(出典:環境省レッドリスト2012版、栃木県版レッドリスト2011改訂版、2005 レッドデータブックとちぎ)

再発見! 鹿沼の魅力 (第1回)



発光路の強飯式 (ほっこうじのごうはんしき)

「発光路の強飯式」とは、鹿沼市^{かみかす}上粕尾の^{みょうけん}妙見神社の祭り当番の受け渡しの儀式として行なわれる行事であり、1996年12月20日に国の重要無形民俗文化財に指定されました。行事は氏子の扮した^{やまぶし}山伏と強力が、新太夫(次回の当番)・古太夫(今回の当番)の新旧の祭り当番をはじめ、氏子の人々に対して^{たかもりめし}高盛飯を強います(山盛りのごはんとお酒を頂く儀式のことを「強飯式」というようです)。毎年1月3日に公開しているようですので、興味のあるかたは見学に訪れてみてはいかがでしょうか?



行事の様子

【出典】鹿沼市HP: <http://www.city.kanuma.tochigi.jp/12,241,167,582.html>
国指定文化財等データベース
<http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/maindetails.asp>

編集後記

検証が明け、思川だよりをリニューアルしました。いかがでしたか? 思川開発事業に更に関心を持っていただけたなら幸いです。はやくも冬の訪れを感じますが、寒さに負けず、熱意ある思川開発事業を発信していきます!

お知らせ

- ▼思川開発建設所では、現場案内を随時開催しています! 詳しくはお電話またはHPをご覧ください!
- ▼「思川だより」に関するご意見・ご要望を募集しています! お気軽に下記連絡先までお寄せ下さい!

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2

T e l (0289) 85-1110 F a x (0289) 85-1211

<http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html>

思川開発

検索